

週刊センターニュース

No.286



第286号(2009年11月24日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

〇〇〇 第251回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時: 10月26日(木) 16時30分~18時

会場: 角間キャンパス 総合教育1号館2階 会議室

テーマ: 「自由記述アンケートによる授業評価方法: テキストマイニングツールの使用」

企画者: 山田政寛 (教育支援システム研究部門)

報告者: 佐藤創 (ジャストシステム株式会社)

内容: 全国的に高等教育において、FD活動の一環として、授業評価アンケートが実施されている。アンケートでは5段階評価などのリッカートスケールを使って授業満足度などのデータを数値として収集されることが多いが、質問項目の裏にある学習者の考え、その回答に至った根拠はリッカートスケールでは詳細に把握することは難しい。その対策の1つとして自由記述アンケートやインタビューを実施することによりデータの質を補完することは有効である。しかし、自由記述アンケートなどの文書データを使用して一定の評価を行うためには大変手間がかかるため、詳細な分析が実施されることは少ない。

今回はジャストシステム株式会社 佐藤創氏よりの評価分析システム「TRUSTIA (トラスティア)」の使用方法を紹介してもらい、デモも入れながら、FDへの応用的利用について検討を行いたい。TRUSTIAは、「ATOK」などで定評のある日本語解析技術を用いて、自由記述文を素早く集計・分類することを可能にしたソフトウェアである。授業評価や各種アンケートなど、選択式だけではとらえにくい発言者の意図、感情のより精密な分析を支援する目的で開発されている。また、授業支援システム「Teaching Assitant」を搭載しており、通知や出席簿、アンケート配信や投票といった情報を学生ごとに管理することで、教務の効率化が期待される。

〇〇〇 外国語教育における同期型 CMC の利用に関する論文紹介

—Lina Lee の研究— 〇〇〇

2009年11月19日に開催した共同学習会において、外国語教育におけるコンピューターを介したコミュニケーション(Computer-Mediated Communication: CMC)ツールの利用に関して発表したところ、出席者より、実践的な課題、実験・研究的な知見に関して活発なご議論を頂いた。今回のセンターニュースではコミュニケーションツールの外国語教育への利用に関する先行研究についてレビューをしたい。

・Lee, L. (2003), Perspectives of Nonnative Speakers of Spanish on Two Types of Online Collaborative Exchanges: Promise and Challenges, Professional Series in Language Development: Best Practices in Teaching with Technology, Heinle & Heinle Publishing, pp. 248-261

Lee の章では、外国語学習において、母語話者と非母語話者（3年間のスペイン語学習経験がある）、非母語話者間の2タイプのテキストチャットを通じたインタラクションを分析し、学習者のテキストチャットへの態度や学習満足度などを調査した結果が示されている。外国語はスペイン語とされた。タスクは「理想的な青年時代とは」、「新しい技術は仕事や生活院どういう影響を与えるか」などについて議論であった。評価は1セメスター行われ、セメスター後に質問紙による評価とインタビューが行われた。その結果として、「オンラインディスカッションは便利なものである」が5段階中4.37、「非母語話者との会話は楽しかった」が4.23など学習の情意面に関する有効性や「ライティングスキル上がったと思う」という効力感に近い主観的評価が4.33と高い値を示した。ただ、スピーキングスキルが上がったかという点については2.12と低い値を示した。インタビューでは、非母語話者間では「強いコミュニティー所属感がある」、「オープンでストレスが少なくて良い」といったポジティブな意見もあったが、「発言の均等性というところでは学習者側はアウトプットする機会を失うので良くない」という意見も確認された。母語話者との会話については情意面では低い評価であったものの、相手が使った表現を使ってみる、自分のミスを修正してもらうことで学習するといった母語話者からの適切な支援を受けることで学習していることが会話ログの分析で示されたとしている。

本論文は純粋な比較にはなっていないが、長期的な実践の評価と母語話者－非母語話者間と非母語話者間の2タイプのインタラクションを情意面も含めて実践評価をしていることから、実践研究としての価値は高い。この論文からもCMCの有効性は示されているが、CMCのコミュニケーションや学習に関する効果は社会心理学や認知心理学などの研究知見に基づき、「なぜ有効なのか？」という点を深く分析することが望まれる。外国語教育研究者の中にも「心的な要因や理論を押さえなければ、CMC環境が果たして外国語教育に有効なのかかわからない。その素地が外国語教育にはできていない」ことや「社会心理学の観点からも分析されるべき」と指摘する研究者もいる(Salaberry, 2000; Lamy & Hampel, 2007; Levy, 2007)。最後に学術書と論文を紹介したい。

【紹介文献】

Warschauer, M & Kern, R Network-based Language Teaching: Concepts and Practice, Cambridge University Press, Cambridge, UK

Lamy M-N & Hampel, R. (2007). Online Communication in Language Learning and Teaching, Palgrave Macmillan, New York, NY, US

【引用文献】

Lamy M-N & Hampel, R. (2007). Online Communication in Language Learning and Teaching, Palgrave Macmillan, New York, NY, US

Levy, M. (2007) Research and Technological Innovation in CALL, Innovation in Language Learning and Teaching, 1(1), 180-190

Salaberry, M.R. (2000) Pedagogical Design of Computer Mediated Communication Tasks: Learning Objectives and Technological Capabilities, The Modern Language Journal, 84(1), 28-37

(文責：教育支援システム研究部門 山田政寛)

○●○ アカサポータルにFD・SDカレンダー(11月・12月開催)掲載中 ○●○

アカサポータル上にFDカレンダー・SDカレンダーを掲載しています。全国の大学や大学コンソーシアムが主催するFDおよび大学教育改善に関する様々なフォーラム・セミナー開催情報(11月・12月開催)を参照することができます。是非、ご活用下さい。